

1 灯籠流しについて

約八千個もの美しい光が、原爆ドームの側を流れる元安川を淡く照らし出しました。

この元安川は、被爆し火傷を負った人々が水を求めて飛び込んだ川なのだそうです。なので、毎年犠牲者を悼む灯籠流しが行われています。私たちは、その歴史ある行事に参加することができました。灯籠流しには、毎年全国各地から多くの人が集まり、魂を追悼します。今年は、天気が悪く人も少ないのかなと思っていましたが、多くの人に来ていました。

川が見えてくるにつれて、水がとてもきれいだということが分かり、本当に悲惨な出来事があったのかと、信じられない気持ちになりました。

2 心に残ったこと

初めて目の前で見た灯籠流し。元安川に約八千個もの色とりどりの灯籠が光とともに流れ行く様子は、とても美しく、幻想的であったことが、一番心に残りました。

川面を染める祈りの光、追悼や平和への願いを込めて、たくさんの方が、それぞれの思いを灯籠に書いています。私は、「原爆という恐ろしい出来事を忘れないよう、語りつぐことで、世の中が平和でありますように」、人と人とのつながりを大切にする意味を込め「絆」。世の中の方が笑って暮らしていけるように「笑顔」。そして、素直に「平和」と書きました。

元安川の灯籠流しには、日本の方々はもちろんたくさんいましたが、外国の方々もたくさんいました。

外国の人も、私たちと同じ平和を願っているのでしょうか。世界中の人が皆、広島が原爆により、悲惨な目に合った事実、被爆で長年苦しんできた方々の心情を知って戦争を二度と繰り返してはいけないと思ってほしいです。

願いを込めた灯籠が、静かに元安川を流れ、それぞれの思いが原子爆弾の被害で亡くなってしまった方々に届いてほしいです。

43年ぶりの雨の中行われた「広島平和記念式典」。夜には雨もやみ、灯籠の灯が消えるのを心配することもなく、元安川灯籠流しを体験することができました。

元安川に着いてすぐ灯籠を流せると思っていたのですが、ディズニーランドのアトラクションに乗る時くらいの大行列ですぐには灯籠を流すことができませんでした。しかしざ灯籠を流してみると、本当にあっという間のできごとでした。

私は灯籠に「大切な人達が笑顔でいられますように」と書いて流しました。笑うことができるというのはすごく素晴らしいことだと思うし、笑顔でいれば辛いことがあっても気持ちが楽になるから自分にとって、みんなにとって大切な人が笑顔でいられたらいいなあ、という思いを込めて書きました。また、人は一人では幸せになることができません。辛いときに仲間が支えてくれるから幸せになれるのです。だから、幸せという文字は辛いという文字足す一画でできているんだなと灯籠を書いてて思いました。

二歳ぐらいの子どもから八十代後半ぐらいのおじいさん、おばあさんなど、はば広い方々が灯籠流しをしていてとても感動しました。被爆した方々に私達の思いや願いが届いてくれると嬉しいです。

元安川を流れる灯籠の灯は、とても感動的でした。一本の川を流れるおよそ八千個もの灯籠の一つ一つがさまざまな願いをもってゆっくりと流れていました。

僕は、初めて灯籠流しを体験しました。何十年もの歴史がある、広島での灯籠流しは、この先何年経っても忘れないと思います。僕は、灯籠に「世界の平和を祈ります。」というメッセージを書きました。原子爆弾をおとされた69年前のあのとき、たくさんの方が水を求め、熱さをしのぐため、飛びこんだ。しかし、苦しみ亡くなった人がたくさんいます。そんな川から私たちの願い、あのときに亡くなった人々の願いが世界に届いてほしいと思います。

あれから69年たった今でも、戦争が行われている国があります。まだ幼い子どもが銃をもったり、たくさんの方が命がうばわれています。「核兵器」の使用は第二次世界大戦においてのアメリカの日本への原子爆弾二発の投下のみということですが、戦争によって罪もない人々が死んでいるということには、変わりありません。この先も戦争が起こってしまうことがあるかもしれません。しかし、戦争を起こさないようにするための努力をして、僕も、色々な人のために努力をして、「世界平和」という願いが世界に届き、戦争がなく、世界中の人々、一人一人が、「平和」に感じられる世界をつくっていけるように、自分ができる小さなことを、一つ一つできるようにしたいです。この八千個の願いから世界が変わるように。僕は今回の体験を身近な人から伝えていきたいです。

3 体験して学んだこと

広島での平和記念式典のあった夜に、灯籠流しをしました。

自分は、「平和」や、「希望」、「福」、「祈」などを書き、元安川へ灯籠を流しました。他にも、「世界が平和になりますように」や、「争いごとがなくなりますように」などの平和への願いを込めたメッセージが書かれたものが流れていました。

自分は灯籠流しをして、たくさんの方の込められた祈りを感じることができました。

灯籠流しは、原爆によって、被爆をした人々のようなことが二度と起きないように、祈りを捧げます。今年で原爆が落ちてから69年目をむかえました。平和記念式典は、四十三年ぶり雨での式典でしたが、灯籠流しでは、無事に晴れ、とてもよい景色を見ることができました。

灯籠流しは、あっという間の出来事のように終わってしまいましたが、とても良いに経験になりました。

僕は元安川灯籠流しを体験して「平和」な世界を実現させるためには、僕達一人一人の「思い」が最も大切なことだと強く感じました。

灯籠流しには世界各国からもたくさんの人々が参加していました。その一人一人が灯籠に自分の願いと祈りを込めて川に流している様子がとても印象深かったです。みんなが同じ「平和」を思っていると考えると心が温かくなるとともに、今自分が「当りまえ」に過ごしている日々がとても幸せなことなんだと思いました。たくさんの方の願いと祈りが世界中の人に届いてほしいです。

一人一人の思いで地球を救うことができるはずで、世界を変えることができます。戦争は絶対悪、平和が一番、こう思い続けることが平和への近道だと思います。未来は僕達子どもにかかっています。僕達の責任をしっかりと果たし、「Believe the peaceful world」の心を誰もが持てる世界にしていきたいと思いました。

以上